目　次

はじめに　星野芳郎
第一部　外国の科学者の動き　武谷三男

I　原子力解放の前史
1　思想の革命 …… 3
2　民主主義の精神 …… 6
3　原子物理学の前進 …… 11
4　ファシズムの嵐の中で …… 14

II　第二次世界大戦と科学者
1　原子爆弾の製造へ …… 23
2　アメリカの研究組織の強味 …… 27
3　原爆投下決定と科学者の良心 …… 34

4 ヨーロッパの科学者の動き …… 42

Ⅲ アメリカの原爆独占時代

1 アメリカでの原子力管理をめぐる対立 …… 47
2 アチソン＝リリエンソール報告の思想 …… 55
3 原子力国際管理の理想と現実 …… 62
4 各国における原子力研究の前進 …… 65
5 アメリカ案とソヴェト案との対立 …… 72

Ⅳ 自由主義科学者の苦悩

1 ソヴェトでの原子爆発の波紋 …… 77
2 平和運動に立つ科学者 …… 86
3 原子力研究組織と民主主義 …… 90
4 学問思想の自由の固守 …… 97
5 オッペンハイマー追放の意味 …… 105

Ⅴ 科学は国境をこえて

1 「死の灰」と科学者 …… 117

2　原子力の平和利用……124
3　核兵器の実験禁止を……131
4　原子力国際管理への希望……141

第二部　日本の科学者の動き

武谷三男

I　太平洋戦争のころ

1　研究奉還運動……153
2　原子爆弾の研究に手をつける……157
3　検事局で原子爆弾の講義……163
4　戦時の日本技術の性格……166
5　利口に立回った科学者たち……170
6　サイクロトロン破壊事件の意味するもの……173
7　再建への起ち上り……177

II　占領軍のもとで

1　学会の再編成……179

2 ガリ版の学会誌 …… 182
3 学術会議の誕生 …… 185
4 気象台と鉄道技研の首切り …… 189
5 科学技術行政協議会の正体 …… 192
6 クレームとアメリカの技術進出 …… 194
7 理論物理学者の受難 …… 198
8 湯川記念館の発足 …… 200
9 国際理論物理学会の運営をめぐって …… 203

Ⅲ 原子力のくさわけ
1 原子核研究所の設立 …… 207
2 核研騒ぎと原子力問題 …… 214
3 暗々裡に急がれた原子力問題 …… 217
4 アイク提案と結びつく原子炉予算 …… 223
5 三原則をじゃまにする人たち …… 226

Ⅳ 「死の灰」と原子炉
1 「死の灰」をめぐる動き …… 229

2　食品中の毒物許容量の考え方……234
3　原子力海外調査団の演じた役割……236
4　濃縮ウラン受入れの背景……240
5　ジュネーヴ会議代表団の人選と握りつぶされた論文……242
6　宣伝にあおられた日本代表……248
7　原子力時代はまだ遠い……250
8　原水爆を持込まない保証は何か……252

V　転回点にきた原子力

1　平和利用をめざす闘い……257
2　ジュネーヴ原子力平和利用会議の結果……264
3　原子力委員会の発足……266
4　動力協定現わる……267
5　原子力研究所……268
6　電力業界の動き……270
7　原子力発電の原価……272
8　切りひらくべき分野……278

9　新しい情勢が開けている……280

Ⅵ　活発化する原子炉問題

1　日米動力協定をめぐって……283
2　K・J・Rの活動……288
3　東海村の原子炉……293
4　関西の原子炉問題……296
5　原子炉はまだ安全とはいえない……304
6　コールダーホール型の耐震問題……312
7　今日の中心問題……315

付　日本学術会議における原子力研究三原則の経過資料……321

装幀・難波田竜起